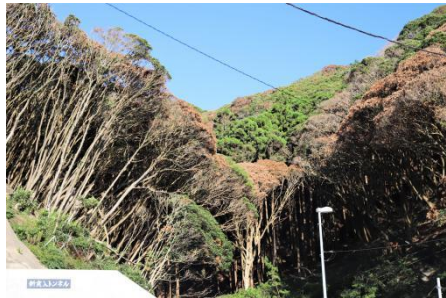


# ちば里山新聞

(第59号)  
 編集発行 NPO 法人ちば里山センター  
 袖ヶ浦市長浦拓2号 580-148  
 ☎ 0438-62-8895  
 題 字 倉島 貴浩  
 (ワークホーム里山の仲間たち)

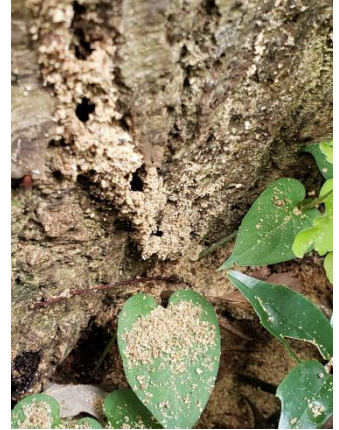
## 2017年安房鴨川に上陸したナラ枯れが 千葉県全域に拡大

2017年鴨川で初めてマテバシイのナラ枯れが発見されたのち3年後に千葉県全域でナラ枯れ被害が報告されています。ナラ枯れの原因はカシノナガキクイムシ(通称カシナガ)が樹木内に穿入し、樹幹内部でナラ菌を培養・繁殖することで、水の吸い上げを阻止することによって樹木を枯死させます。被害木としてはコナラ、ミズナラ、クヌギ、カシワ、クリ、スダジイ等のブナ科ナラ類である。



枯れたマテバシイ林 鴨川

カシナガは日本在来の昆虫であり、ナラ枯れは古くから知られていたが最近被害が拡大している要因として炭焼きやシイタケのホダ木としての利用が減ったことによる大径木化が挙げられます。カシナガは直径10cm



フラス(木屑)が散乱



カシノナガキクイムシ

以下のナラ類では発生しにくく、大径木ほど繁殖効率が上がって数を増します。カシナガの被害を確認するには木の根元にフラスが散乱していないか、幹に穿入孔が空いていないかで判断します。穿入孔を観察していると巣穴に居るカシナガが孔道を掘った木屑をけり出すのが見られることもあります。今回、ちば里山センター会員にナラ枯れの被害状況を調査したところ、被害はコナラの大径木に集中してしまっていて、その他クヌギ、シラカシ、ウラジロガシ、ピンオークにも被害が及んでいます。



カシナガの穿入孔  
2mmほど

カシナガの被害対策としては殺菌剤の樹幹注入、伐倒くん蒸などがありますが、かなり大がかりで、里山団体が簡単にできることではありません。比較的簡単にできる方法として、千葉県森林総合研究所でもすすめる写真右のようにクリアファイルを利用したトラップの設置、又はカシナガが活動を開始する5、6月にスミパイン剤を被害木の樹



クリアファイルを利用したトラップと  
5、6月の活動期にスミパイン剤散布後  
サランラップを巻くと効果的である

幹に散布し、サランラップを巻く方法が現実的と考えられます。

これまでの研究で高齢木、大径木があるほど被害を受けやすいとわかっていますので、高齢木、大径木を伐採して雑木林の若返りを図ることが健全な森づくりの第一歩になるかと思えます。

	松戸里やま応援団	ちば千年の森	堂谷津の里	わんぱくの森	むつみの森	椎の森	HICの森	安馬谷里山
コナラ	57	49	18	12	11	10	4	2
その他	10	1	0	0	0	0	5	0

## 千葉県東葛地区の話題

### 官民パートナーシップで里やまボランティア入門講座 18 回目を開講 (松戸市)

松戸市では今年で 18 回目の「里やまボランティア入門講座」(＝以下、入門講座)が開講しました。講座は 10 月 22 日から 11 月 26 日までの木曜日全 5 回です。新型コロナウイルス感染予防に鑑み、マスク着用、三密の回避、手指消毒等徹底した対策を講じました。

年度当初、松戸里やま応援団(※)連絡会では、新型コロナウイルス感染予防を考慮して開催を危ぶむ声も出ましたが、「一度中止すると復活が困難になる」のではないかと心配する声もあり、入門講座の担当委員(里やま応援団メンバー)の間で開催に向けて話し合ってきました。こうした経緯に市民ボランティアの底力を垣間見たような気がしました。

入門講座は、講座を修了し里やまボランティアとして活動する修了生の中から担当の委員が選ばれ、市役所担当課、双方をコーディネートする松戸まちづくり交流室が三者で協議し、講座の企画から運営を行っています。

第 2 回目の入門講座から毎年こうした努力が繰り返されています。ボランティアとして活動する市民が入門講座の大筋を決めて市役所とともに運営する全国的にも珍しいケースだと思います。

今年の企画はコロナウイルス感染予防対策もあり、オープンエアでの活動をなるべく多くし、最終日は市民センター会議室でまとめを行うスタイルに収まりました。募集人数も、昨年までは定員 20 名のところ、今年は三密を避けるため 13 名としました。

「里やまボランティア入門講座」参加者募集を掲載した松戸市の広報 9 月 15 日号が発行されると、郵送、メール、QR コードからの電子申請を通じて 34 人もの応募がありましたが、抽選で 13 人になりました。

これまで入門講座の修了生によって 14 の里やま活動団体が設立されて、普段は市内にある 15 の樹林地をフィールドにして活動し、毎月一回松戸里やま応援団として連絡会を持っています。困りごとがあれば相談に行き、大径木の伐倒が必要とあれば、応援団として駆け付け、伐倒に協力しています。里やま活動から出される廃棄物等は市役所を通じて処理しています。



第 1 回里やまボランティア入門講座  
しんやまの森にて 2020.10.22

大径木の伐倒、刈払機で草刈りなどエンジン付きの道具を扱い、危険と隣り合わせであることから、ステップアップ講座として安全講習を行っています。担当者は危険を回避する、安全を確保するために「これでいいということはない」と強調しています。こうした積み重ねを振り返ると市内の団体が連絡会を持ち、里やまの保護、整備に携わっていることによって、より充実した活動になっているかと思えます。

(※) 松戸里やま応援団＝毎年行われる「里やまボランティア入門講座」修了生が設立した里やま活動団体の集まり。主に市内の民有樹林地で活動している。

日時	会場	内容
10 月 22 日	21 世紀の森と広場	里やまってなんだろう 里やまを歩いてみよう
10 月 29 日	八ヶ崎の森・21 世紀の森と広場	小さなもりのものがたり 行政と里やまボランティア
11 月 5 日	囲いやまの森	森の安全心得森のお楽しみ
11 月 6 日～ 11 月 25 日	期間中の 1 日市内の森で活動	お気に入りの森を探そう
11 月 26 日	稔台市民センター	里やま体験を振り返る 知ったこと・やってみたいこと



## 里山情報バンクに新しいフィールド情報が追加されました!

整理番号 02-16-01 佐倉市下根(京成佐倉駅から徒歩16分) 駐車場 20台程度あり  
 詳しくは、<http://chiba-satoyama.net/bank/fields/> または、下記の問合せ先まで  
 問合せ先: 北部林業事務所 印旛支所 TEL 043-483-1130

## 安全な森林作業を行うための安全講習会開催

- 開催日時: 令和2年11月22日(日) 10時から (受付開始: 9時30分~)
- 会場: かずさアカデミアホール 2F 201号室(木更津市かずさ鎌足2-3-9)
- 内容: 第1部 「ヒューマンエラーと指差呼称」 一指差呼称が事故から守る—  
 第2部 「安全とは? リスクとは?」 一ルールを破ると事故を呼び—
- 講師: 藤本労働安全コンサルタント事務所 藤本 吟蔵 氏
- 参加費: 無料 ■申込: <http://chiba-satoyama.net/allnews/event/5743>



## 【台風被害木処置】マスター樹護士アーボリストによる折損枝除去作業

9月5日(土) NPO バランス21(佐藤聡子代表) フィールド、千葉市若葉区谷当町



枝を手鋸で処理



枝先側で切り落とす



折れ口を切り取る

の里山「堂谷津の里」にて、昨年の台風で生じた被害木の折損枝の除去がおこなわれました。作業と説明はマスター樹護士アーボリスト®手戸博信氏(アーボリストトレーニング研究所.ATI認定トレーナー)(ちば街山保全会 代表)が務めました。

ミッションは強風で樹上に折れ掛ったままのコナラの枝の除去と樹冠部の幹折れ、隣のコナラに掛かりブリッジ状態の枝を安全に切り落とす作業です。

樹上に掛かった折損枝、地形、周辺植生、降ろす場所を確認と共有。クライミング後、体のバランスを取りながら枝先より手鋸で処理しました。続いて幹折れブリッジ状態解除へ、樹体状態は? アンカーは? 樹上へのルートは? 「枝元」か「枝先」か、地上で手順を確認、樹上でも精査していました。不安定なものは一時確保、状態を慎重に見極め、支点と方向を確認し枝先より徐々に切詰めました。

この場面ではクライミングロープ2本の木にセット、有効に使うことでリスクは低減、予防と効率を考えた設計、常にリスクをマネジメントするとの事でした。

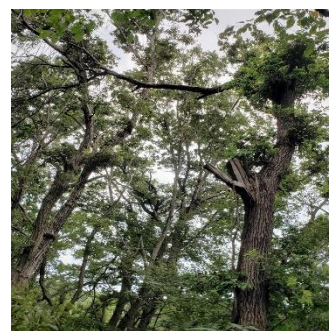
ブリッジ状態を解除した後は、対の木に樹間移動、折損部をチェーンソーで整えて作業完了となりました。

今回は大変貴重なものを見せていただき、今後の森林整備に大いに期待できるものがありました。(赤松)

樹護士アーボリストの知識と技術は樹木と環境の保全を目的とし、森林でも住宅地でも生きもの達との関係、人社会との関係を総合的に考察、その技術は災害時の緊急対処にも提供されます。(手戸)



中央が準備中の手戸氏



ブリッジ状態の枝



となりの木に樹間移動



## いちほら里山クラブ古敷谷フィールドを訪問記



のどかな里山風景



フィールド内散策



イワタバコと山葵



道具小屋

里山新聞第58号の取材にて台風15号の被害とその利用について多くの情報を寄せていただき、現地の様子を見たくなり芦川会長にお願いして8月8日の活動日に訪問しました。古敷谷フィールドは私が里山カレッジ受講生として訪れたこともあり、お昼にクロモジ茶を飲ませて頂いた折、作り方まで教わり、その後にクロモジ茶をイベントがある度に提供するようにしています。ログハウスに入るとその当時の故風間会長の写真があり懐かしく感じられました。いちほら里山クラブの活動地は古敷谷、高坂、天羽田、立野の4地区あり古敷谷が一番里山らしいからと芦川会長のおすすめで決めました。訪問日は刈り払い機の講習があり、その後の休憩でお茶と漬物をごちそうになり、古敷谷フィールドの説明があり、その中いまだ無名の池がありなんと名付けるかで盛り上がっていました。その後フィールド内を案内して呉れるとのことでトンボ池から突然の急登で一気に見晴らし台まで登り、周りのゴルフ場が眺めることが出来、高低差に驚きました。登る途中に大きなコナラが2本ほど枯れていましたがカシノナガキクイムシの被害では無いようでした。尾根筋を下り休耕田に出ると水を張りピオトープとして使い多様な水性昆虫いるようで、特にイトトンボの多さには驚き、大事にしてもらいたいと思いました。途中清水の流れ込む名無しの池があり、雨が降らないと枯れてしまうそうですが今日はひっそりと山葵とイワタバコが咲いていました。散策を終えるとある会員がスズメバチトラップとして何種か施策品をつくりトンボ池の木に吊るしていました。この会には色々と職人が多らしくログハウス前のカーピングによる籠、休憩時に張られる臨時ロール屋根、整理整頓された道具小屋といった具合で職人魂と伝統に培われた素晴らしいクラブでした。



ログハウス



芦川会長より説明

## 里山の風にゆられて ⑮



アキカラマツ<秋唐松>キンポウゲ科カラマツソウ属

多年草でキンポウゲ科であり、初秋に黄緑色の小花を枝先に無数に付ける。長野県の高遠地方では高遠草(タカトグサ)といい、干したモノを煎じて胃腸薬として用いられ腹痛、下痢止め、食あたりに効能があるという。

写真・文 赤松義雄 R2.10.11 袖ヶ浦市しいのもり

## \*\*\*編集後記\*\*\*

◇今年には新型コロナとアメリカ大統領選挙でいまだ敗戦宣言しないトランプ氏で1年が終わろうとしているなか、里山では台風被害のあとカシノナガキクイムシによるナラ枯れが広がりこの先が重く暗いようですがいよいよ11月から岡部塾が始まります。岡部流実践技でチェンソープロ職人を育成してもらい、台風被害木並びにカシナガの被害を受けない健全な森への整備をしてもらいたいものです。(Y.A)

## 入会申し込み・問い合わせ先

特定非営利活動法人 ちば里山センター

〒299-0265 千葉県袖ヶ浦市長浦拓2号 580-148 ☎0438-62-8895 FAX0438-62-8896 (平日9:00~17:00)

E-mail [info@chiba-satoyama.net](mailto:info@chiba-satoyama.net) ホームページ <http://www.chiba-satoyama.net/>